

令和6年度 すずたこども園における自己評価について

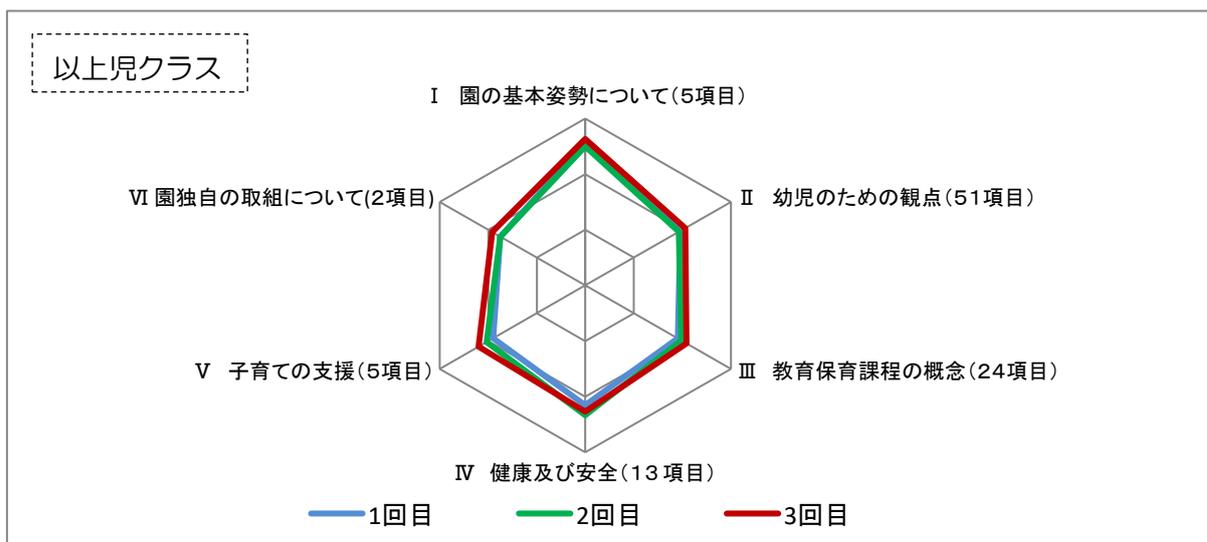
認定こども園
すずたこども園
園長 廣瀬 昌浩

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく「自己チェックリスト100」を過去3年間使用し自己評価を実施していましたが、チェック内容についてももう少し具体的でわかりやすく、自園の取り組みに合った項目へと見直した方がよいのではないかと考えました。

そこで、各種研修会や園見学への参加を行ったり、園内研修等で振り返ったりしながら、チェックリストの内容を見直しました。幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく基本的なチェック項目も残しつつ、見守る保育の理念を基に今年度からは新しい「自己チェックリスト100」で自己評価を行いました。

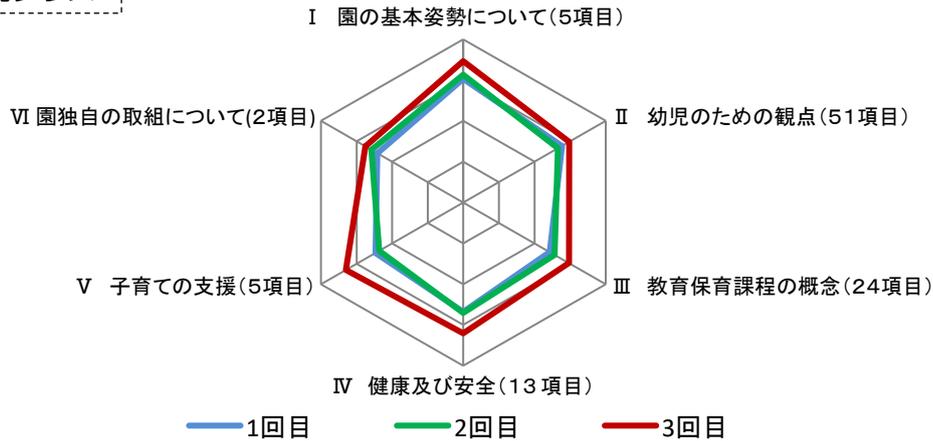
自己評価を行う上で、子どもが今をよりよく生きているか、きちんとした発達を遂げているかという子どもの姿から自らの保育を振り返ることが大切です。また、子どもに何かをさせるのではなく、その子の周りにきちんとした発達を促すような環境を用意できているか、その環境のなかで子どもが生き生きと活動できているか、という評価の対象を人・物・空間を含めた子どもを取り巻く環境と、そのなかでの子どもの姿を振り返り見直していく必要があります。

令和6年度は、環境という観点もあり以上児クラスと未満児クラスで別々のチェックリストで自己評価を行いました。常勤保育教諭等以上児クラス6名、未満児クラス（看護師含む）9名で年3回実施し、個人の評価を総合し園全体の評価として結果をグラフにしています。その結果を公表いたします。



以上児クラス全体での結果は3回ともレーダーチャートの大きさに大きな変化は見られませんが、回を重ねる毎に少しずつですが広がっています。項目I園の基本姿勢についての理解力は高めですが、その他の項目はまだまだ努力が必要です。個人の結果にはばらつきが見られたので、以上児フロア的环境について職員間の話し合う機会を増やし、個々の認識を高める為にフロア内で協力し取り組んでいくことが課題となっています。

未満児クラス



未満児クラスは、1、2回目のレーダーチャートがほぼ重なっていますが、3回目のレーダーチャートは大きく広がっていることが分かります。特に、項目V子育ての支援についてはポイントが大きく増えています。未満児クラスは保護者と直接関わる機会や発達相談なども多く、また年度後半になる進級に向けての取り組みもあり保育者としての認識も高まったのではないかと思います。

自己評価の結果は毎回園内に掲示し、園内研修でも報告し総評を行っています。自己の能力を判断すると同時に自己の不足の部分を認識したり、個人の評価を総合することで、園全体の傾向を見ることができました。今年度より新しい自己チェックを行うことで、前年度までとは内容は違っていますが、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容もしっかり理解しながら、園独自の見守る保育を構築できればと思います。

来年度も子どもの生きる力を育む環境を整え提供できるよう、保育教諭等一人ひとりの質の向上を図り、その努力を園全体として有効なものにできるよう、取り組んで参りたいと思います。